

北朝鮮人道支援の会 ニューズレター N0.58

(朝鮮民主主義人民共和国)

編集・発行人 吉田 康彦

〒330-0855 さいたま市大宮区上小町1 1 4 5 TEL:048-778-9961 FAX:048-647-6191

E-mail: yy2448@chive.ocn.ne.jp URL:<http://www.yoshida-yasuhiko.com/>

郵便振替番号: 00140-4-126579 加入者名「北朝鮮人道支援の会」

2010年 3月1日

創立30周年迎えた日朝松本市民会議



朝鮮の自主的平和統一を支持する松本市民会議(日朝松本市民会議)は、2月12日、松本市内で第27回総会を開催し、大型訪朝団の派遣など結成30周年記念事業の実施と日朝国交正常化の早期実現など当面する活動方針を決定した。

総会には、会員や労組・団体代表者など75名が参加しました。杉本文男会長は、主催者代表のあいさつで、1980年10月結成された市民会議以来、延べ80名以上の訪問者を派遣し、対文協との友好親善に努めてきたこと。また松本市内にある朝鮮人強制連行の林城山三菱地下軍事工場調査の実施や長野朝鮮初中級学校支援の活動、在日朝鮮人の人権擁護の活動経過にふれ、ことし10月に迎える30周年事業を成功させたいと述べた。

第2部で記念講演に立った大阪経済法科大学客員教授の吉田康彦氏は、今年で8年連続講師として松本に来県している。吉田氏は講演のなかで、全国広しといえども連続して8回も松本の総会に呼ばれるのはここだけと述べ、小泉首相が訪朝した2002年以来、豊富な人脈と知識で朝鮮半島情勢をかたる吉田氏の講演は、いつも新鮮で好評を博している。

吉田氏は、アメリカのオバマ政権1年の実績がゼロであることから、朝鮮半島非核化だけが可能性がある外交カードであること、近く米朝本格協議が始まる情勢にあつて、日朝も早晚協議が始まるとの見通しを述べた上で、問題は拉致問題で硬直した日本国民の反「北」世論をどう克服するかが問題だとして、日朝市民会議の一層の活動強化に期待を寄せた。

総会後は恒例の「キムチ鍋」に舌鼓をうった。【事務局長・荒井宏行】

「南北コリアと日本のともだち展」10周年に向けて ——事務局からのおしらせ

すぐ隣に暮らしながら、実際には行き来の難しい北東アジア地域の子どもたちが、絵とメッセージを交換しながら互いへの理解を深める「南北コリアと日本のともだち展」は、スタートしてから今年で10年目を迎える。振り返れば「ともだち展」は、南北の融和と日朝の緊張、そして日韓の急接近という、朝鮮半島の解放後(=日本の戦後)ある意味経験したことのない特異な「情勢」のなかで行なわれてきた。国交が断絶したままの日朝関係、未だに休戦状況にある南北関係、こういった不正常的な「関係」が改善へと向かうような土壌をつくりたい、と考えてきた「ともだち展」にとって、10年目の状況は必ずしも望ましい方向に進んでいるとは言いがたい。

朝鮮半島を取り巻く重要なアクターたち、韓国・アメリカ・日本は政権交代を終えて、次のステップへの交渉の機会をうかがっているようだが、傍目には「没交渉」のようにも見えてしまう。

こういった政治の動きに翻弄されてしまいがちな小さな取り組みではあるが、この10年間に「ともだち展」が積み上げてきたものも小さくはない。

韓国側のパートナーである「オリニオツケドム」の協力により、韓国の絵本作家・柳在守氏が全面的に協力してくださった共同制作『平和の木』が東京・平壤(ソウルは新型インフルエンザの影響によりやむを得ず中止)を巡り、韓国・日本・朝鮮に暮らす子どもたちの絵を一枚の画面に込めることができた。この作品の完成には、長年「ともだち展」に深い理解を示し、協力して下さっている朝鮮学校の方々の協力も不可欠であった。【次ページへ】



【前ページから続く】

特に、日朝関係の悪化によって協力が難色を示された平壤での共同制作実施においては、訪問に同行した朝鮮学校の先生や子どもたちが、平壤の小学校側の参加を自然なかたちで導いてくれた。日一朝での直球勝負が困難なときであっても、企画の意義を深く理解して、サイドから救いの手を差し伸べてくれる様々な仲間が増えたことも、10年間の大きな成果のひとつだろう。

今年の「ともだち展」では昨年に引き続き、東京・平壤・ソウル参加、各国の作家たちが真正面から「平和」像について喧々諤々意見を戦わせるという大変シビアな過程を乗り越え、加害者としての立場も背負いながら作品を生み出された。

そんな浜田氏が、この地域の複雑な歴史や文化を念頭に置きつつも、未来を担う子どもたちが絵を通して一体となれる「作品づくり」にどう協力して下さるのか、今からたいへん楽しみである。

5月の東京、8月の平壤、9月のソウルでの作品づくりを通して、子どもたちが咲かせる作品の花々は、12月に東京で公開の予定だ。

この東京展に際しては、10年を振り返るリレートーク、そしてこれまでに関わった子どもたちの再会の場も設けたいと考えている。当初、交流に参加した小学生たちは既に高校生、大学生となっている。彼ら、彼女らの意識のなかに「ともだち展」での経験が根付いていれば、この交流事業も地道ながら成果をあげていけると言えるだろう。今後も多くの方々のご賛同をお願いしたい。

【コア子どもキャンペーン事務局・寺西澄子】

日本語図書・日本語教材支援・第2次友好親善訪朝団派遣のおしらせ

本会では2008年5月、平壤外国語大学日本語学科に150冊の日本語図書・教材を寄贈して日朝友好親善に努めましたが、来たる5月の大型連休中、再度、訪朝団を派遣し、第2次支援を行うことになりました。

については、訪朝団参加を希望される会員の参加を公募します。条件は、日朝文化交流、とくに日本語教育に関心のある方で、希望者は3月末までに本会事務局までお申し出ください。

詳細は右記のとおりです。

日程＝2010年4月30日(木)から5月6日(木)まで正味1週間(予定)

出発は成田(または関空)発。往復とも北京経由で、往路は北京に1泊し、入国ビザを取得します。(帰路は空港で乗りかえのみ)

費用＝往復旅費・滞在費(ホテル代、飲食代、国内移動費を含む)・日本語図書教材実費分担金込みで概算30万円(自己負担)。訪朝団としての「おみやげ」などは会で準備します。

なお本計画の意義、さらなる詳細については、吉田康彦著『北朝鮮再考のための60章』(明石書店刊)のP50-55、ならびに吉田康彦著『北朝鮮を見る、聞く、歩く』(平凡社新書)P145-150をご参照ください。

本紙ならびに『ポリシーフォーラム』 会員・読者の皆様へ

以下は2010年1月1日から2月末までに会費・寄付金を納入して下さった方々です。(敬称略、納入日付順)。ありがとうございます。未納の会員は本年度分を納入してください。

キャメロン・ノーブル(3000円)／金 鎮度(6000円)、
崔 智光(18000円)／朴 日楽(6000円)、
金 房淑(10000円)／高坂 美幸(6000円)、
前田 康博(10000円)／北沢 充(3000円)＝退会、
前田 耕一(18000円)／水野 均(50000円)、
岡田 昌子(10000円)＝退会／西中須 孟(3000円)＝退会、
北羅 貞子(大原産業)(10万円)／小松 誠一(3000円)、
北羅 修一(5000円)／伏屋由美子(9000円)、
金 讚福(6000円)／横山 新(10000円)、
岩見 崇(3000円)／杉山 淳(3000円)、
横内 裕治(9000円)＝退会／崔 正勲(12000円)、
青柳 長紀(3000円)／橋村 康司(3000円)、
佐藤 昌子(3000円)／西館 崇(3000円)／道正 健(3000円)

好評発売中！
吉田康彦著
『北朝鮮を見る、聞く、歩く』(平凡社新書)
定価800円(消費税40円)

訪朝経験10回の著者が素顔の北朝鮮各地にご案内。映画、音楽、文学、美術、サーカス、マスケゲームなどの文化活動の細部を描写する本邦初の紹介書。